

特定非営利活動法人スマイリング ホスピタル ジャパン設立趣旨書

法人として取り組むことへの現状と背景

化学療法や移植などのために長期の入院を余儀なくされている多くの子どもたちが、感染予防のために友達との面会も許されず、じっと辛い治療に耐えているという現状があります。多くの病院では、様々な団体により闘病生活を送る患者の癒しを目的に音楽会や演劇の会を催しています。

現状における問題点

しかし、これらは主に外来患者やある程度身体を動かすことのできる入院患者向けです。治療や病状不良のために病室から出られず、催しに参加できない子どもたちは、楽しいと思う経験までも制限されています。

望ましい姿

長期入院児のように生活環境が極端に制限されている患児のためには、病棟や病室にいながら楽しめる活動が必要です。単調で退屈な生活において、一度きりで終わらない、見通しを持って楽しみにできるような、わくわくするような定期的な活動が必要と考えます。見て楽しむだけで終わらず、作品を作る、マジックを覚える、一緒に歌うなどの参加型の活動により、子どもたちが達成感や自信を取り戻し、そしてふさがちな気持ちを少しでも明るく前向きにし、闘病意欲を持ち続けられるように支援することが望ましいのです。

今までの取り組み

プロの芸術家とボランティアが週に2度病院を訪問し、腫瘍科、内科外科系、救急、児童思春期精神科の各病棟と重症心身障害児施設にて定期的活動をしています。病室から出られる子どもはプレイルームにて、出られない子どもはベッドサイドで活動します。マジシャン、ピアニスト・声楽家、童謡歌手、オペラ歌手、ジャズ歌手、音楽療法士、クラフト作家、イラストレーターの9名のプロの芸術家がSHJアーティストとして登録、子どもたちと楽しい時間を共有しています。取り組み方の独自性として、

- ・感染等に対する十分な意識を持った上で、外部からの入棟が困難なハイリスクの病棟に行き、子どもたちを個別に訪問します。
- ・子どもたちが、できた！という喜びを感じるために、見る、聞くに終わらない参加型活動をします。
- ・子どもたちが、見通しを持って活動を楽しみにできるよう、週1回などの定期訪問をします。
- ・極端に限られた環境において、本物のアートを楽しむ機会を提供します。
- ・アーティストは全員が何らかの形で子どものケアに携わった経験を持ち、そのほとんどが病児と関わり、病気の子どもの心理をよく理解し、個々の状態に合わせて適切に対応することができます。

今後の取り組みとその公益性

引き続き独自性を大切にしながら活動し、さらに多くの病院で長期入院児の支援を広げていきます。今後は、社会福祉施設等にも同様の活動をします。対象者とその家族、医療従事者の声を積極的に聞き、気持ちに寄り添えるよう、活動内容を改善しより充実させていきます。一人でも多くの患者、入所者がストレスを減らし、闘病を前向きに克服し、生きる喜びを持ち続けられるよう取り組んでいきます。

特定非営利活動法人を設立する必要性

さらに規模を大きくして活動していくことを考えていますが、任意団体としての活動では個人への負担が非常に大きく、幅広く寄付やボランティアを受け入れられる態勢を整えたいという理由から、NPO 法人への法人化を検討し始めました。平成24年6月に趣旨に賛同してくださる方が集まり、7月に総会を開き、今日の申請に至りました。

平成24年7月19日

スマイリングホスピタルジャパン
設立代表者 松本 恵里